



平成 23 年 2 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社アイ・エス・ビー
代表者名 代表取締役社長 若尾 逸雄
(コード番号 9702 東証第二部)
問合せ先 常務取締役管理本部長 太田 道也
(TEL. 03-3490-1761)

通期業績予想数値と実績数値の差異について

平成22年2月12日に公表した業績予想と本日発表した実績数値の差異について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 12 月期通期連結業績予想数値の修正

(平成 22 年 1 月 1 日 ～ 平成 22 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	11,545	204	260	91	21.79
実績数値 (B)	11,058	△24	174	41	9.94
増減額 (B-A)	△486	△228	△85	△49	—
増減率 (%)	△4.2	—	△32.9	△54.4	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 12 月期)	10,735	91	224	86	20.77

2. 平成 22 年 12 月期通期個別業績予想数値の修正

(平成 22 年 1 月 1 日 ～ 平成 22 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	11,000	196	248	82	19.64
実績数値 (B)	10,595	9	174	44	10.74
増減額 (B-A)	△404	△186	△73	△37	—
増減率 (%)	△3.7	△95.0	△29.7	△45.3	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 12 月期)	10,189	94	214	78	18.85

2. 差異の理由

当連結会計期間における、情報サービス産業界の景況につきましては、年度末に向けて受注動向も緩やかに回復してきており、最悪期は脱したものと感じられます。

しかしながら年初から全般的に弱含みで推移し、年央から秋口にかけては大きく低迷いたしました。

当社グループにつきましても第3四半期までの業績低迷が通期業績に与える影響が大きく、第4四半期に入り稼働率等に大きな回復がみられたものの、期初予想に到達するまでには至らず、売上高は期初予想を若干下回ることとなりました。

収益性につきましては、第4四半期に総コストの削減に鋭意努めた結果、大きく改善いたしましたが、第3四半期までの厳しい状況を挽回するまでには至らず、営業利益・経常利益・当期利益に関しまして、期初予想を下回ることとなりました。

以上